

第2章 松浦市の文化財の概要

1.文化財調査の概要

(1)文化財に関する既往の把握調査

市内における文化財に関する既往の調査研究は、本市が主体となって実施した調査、長崎県が主体となって実施した調査、独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業を活用し行われた調査研究等に分けられます。特徴的な点としては、対象が埋蔵文化財に関するものがほとんどであること、そして科学研究費を活用して行われた大学との連携による鷹島海底遺跡に関する調査研究が多いことが挙げられます。

1) 松浦市の既往調査

●1市2町の合併以前

昭和48(1973)年から平成18(2006)年にかけて、旧松浦市(23冊)、旧鷹島町(12冊)の調査報告書がそれぞれ教育委員会でまとめられています。旧松浦市の調査報告書は一般的な埋蔵文化財の発掘調査に関するもので、旧鷹島町の調査報告書は海底遺跡に関するものです。

旧鷹島町が鷹島海底遺跡に関する調査報告書をまとめるようになったのが昭和59(1984)年からです。平成15(2003)年までは床浪港と神崎港の改修工事にともなう緊急発掘調査が、以後は内容確認のための発掘調査の報告書がまとめられるようになっていきます。

●1市2町の合併後

市内の一般的な埋蔵文化財に関する発掘調査の報告書(7冊)、鷹島海底遺跡に関する報告書(5冊)を計12冊まとめています。

これまでの調査研究成果が認められ、平成24(2012)年3月、鷹島神崎遺跡が国指定史跡に指定されました。その後は、平成26(2014)年に『国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書』を策定しています。

また、本市は旧長醫家住宅主屋の図面作成と評価、そして活用方策に関する調査研究にも取り組んでいます。旧長醫家住宅は、海軍との石炭取引などで財を成し、その後、佐賀県伊万里市や佐世保市で海運業を営んだ長^{なが}醫^い秀夫が出身地の星鹿町に建てた別荘です。平成29(2017)年、旧長醫家住宅主屋が国登録有形文化財に登録されました。

2) 長崎県の既往調査

長崎県が発行する調査報告書の中で、松浦市に関するものは11冊が挙げられます。

埋蔵文化財と鷹島海底遺跡に関する調査報告書に加えて、民俗芸能・民謡に関する調査報告書もまとめられています。

3) 科学研究費助成事業関係

科学研究費による調査報告は、昭和55(1980)年の茂^も在^{ざい}寅^{とら}男^おの調査にはじまり、その後、西谷^{ただし}正や池田^{よしふみ}榮史らによる鷹島海底遺跡関連の調査報告書が多数まとめられています。

(2)文化財の総合的把握

本市は、本計画作成にあたり、令和3(2021)年度に、指定や登録文化財に留まらず、市内に所在する文化財を総合的に把握することを目的として、文化財の現地調査や自治会における伝統的な活動に関する調査等を行いました。

1)文化財の現地調査等

市内に所在する文化財を総合的に把握する現地調査等の概要は以下のとおりです。

①実施概要

本市に関する各種資料の中から「ばしょ」、「いとなみ」、「もの」といった観点から様々な文化財を把握しています。現地で確認できる「ばしょ」や「もの」については現地調査を行いました。また、市民に対して、大切にしたいと思う「モノ」や「コト」を把握するアンケート調査を実施しました。

把握した文化財は、番号を付して、リスト、マップ及び写真を関連付けて、文化財データベースとして整理しています。なお、継続的な調査の推進により、文化財データベースは追加更新していくことを想定しています。

<市民アンケート調査実施概要>

- ・実施日時:令和3(2021)年11月30日～12月20日
- ・配布数:8,585名
- ・回答数:872名(回収率10.1%)

②調査結果

各種資料を踏まえた現地調査により、伊万里湾を臨む風光明媚な景勝地、身近な信仰の場としての神社や寺、傾斜地に開かれた棚田、御厨街道をはじめとする歴史的な道、歴史的な道沿いの伝統的建造物、蒙古襲来や松浦党関係の墓や供養塔といった様々な文化財を把握することができました。

また、各種資料からは、文化財として指定や登録等を受けていない年中行事、地名、生業、民話、郷土食、動物・植物、民俗資料、考古資料、文献資料、図画資料、絵画・彫刻・工芸品等、様々な文化財を把握することができました。

2) 自治会における伝統的な活動に関する調査

昔から続く年中行事をはじめ、市内で継承される伝統的な活動の把握を目的とし、行政協力員（自治会長等）に対するアンケートを実施しました。

①実施概要

- ・実施日時：令和3(2021)年10月30日～11月20日
- ・配布数：148名
- ・回答数：83名（回収率56.0%）

②調査結果

153件の伝統的な活動が把握されました。

具体的には、おくんちなど神社の祭や、子供相撲、精霊流し、もぐら打ちなどの行事が多く把握されたほか、浮立などの芸能や風習、言い伝えなどが挙げられています。

把握された伝統的な活動の中で、休止中や実施状況が不明のものが約20%確認されました。

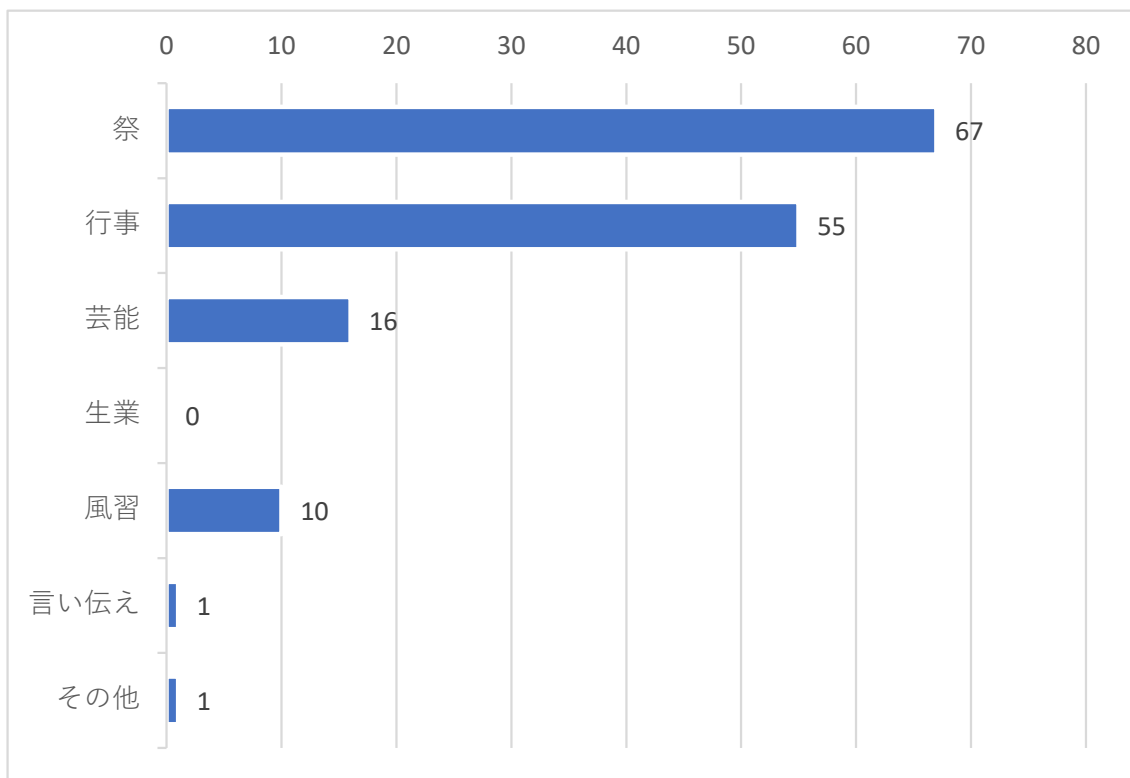


図 アンケートで把握された無形の文化財の種類（件）

(3)文化財に関する既往の把握調査の実績

本市は、前述したように、令和3(2021)年度、市内に所在する文化財を総合的に把握することを目的とした調査を行っています。この調査では「ばしょ」、「いとなみ」、「もの」といった観点から様々な文化財を総合的に把握しています。なお、調査の性格上、それぞれ一部調査にとどまっている可能性があります。

「ばしょ」に関する調査の1つとして、海域を対象に平成17(2005)年から平成27(2015)年にかけて、伊万里湾海底探査により、海底地形・地質調査を行っています。

無形の民俗文化財の民俗芸能・民謡については、長崎県が調査を行い、「長崎県文化財調査報告書第34集 長崎県の民俗芸能・民謡(I)」をまとめています。しかし、この調査は昭和52(1977)年のものであり、その後追跡調査は行われていません。

民話及び郷土食については、一部地域において官民協働で取りまとめを行い、公表しています。

表 文化財に関する既往の把握調査の実績(令和4(2022)年5月時点)

大分類	小分類	地域区分		
		本土	鷹島	福島
ばしょ	遺跡	△	○	△
	信仰の場	△	△	△
	街道、航路、鉄道	△	△	△
	棚田	△	△	△
	農漁村	△	△	△
	名勝地、景勝地	△	△	△
もの	建造物	△	△	△
	絵画、彫刻、工芸品等	△	△	△
	文献資料、図画資料等	△	△	△
	考古資料	△	△	△
	民俗資料	△	△	△
	動物、植物等	△	△	△
いとなみ	風俗慣習、民俗芸能	△	△	△
	地名	△	△	△
	生業	△	△	△
	民話	○	△	△
	郷土食	○	△	○

○:調査済み △一部調査済み ×調査未実施

※各地域区分には、沿岸部を含むものとする。

文化財に関する既往の把握調査の実績を「ばしょ」、「もの」、「いとなみ」の分類別、そして本土、鷹島、福島の地域区分別に分けると、上記の表に整理されます。

「ばしょ」は、鷹島の「遺跡」が調査済みですが、その他は一部調査済みとなっています。

「もの」は、本土、鷹島、福島ともに、すべての小分類で一部調査済みとなっています。

「いとなみ」は、本土の「民話」と「郷土食」、福島の「郷土食」が調査済みですが、その他は一部調査済みとなっています。

2. 指定・登録文化財の概要

現在、市内には、69件の指定・登録文化財があります。国指定の文化財は史跡である鷹島神崎遺跡の1件、県指定の文化財は19件、市の指定文化財が48件、国の登録文化財が1件となっています（令和4(2022)年5月時点）。

指定の区分別にみると、遺跡が最も多く17件、次に動物、植物、地質鉱物13件、無形の民俗文化財10件となっています。

表 市内の指定・登録文化財の件数（令和4（2022）年5月時点）

類型			国指定	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物		0	0	4	1	5
	美術工芸品	絵画	0	0	1	0	1
		彫刻	0	5	3	0	8
		工芸品	0	2	3	0	5
		書跡・典籍	0	0	2	0	2
		古文書	0	0	1	0	1
		考古資料	0	0	0	0	0
	歴史資料	0	1	0	0	1	
無形文化財			0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	1	5	0	6
	無形の民俗文化財		0	1	9	0	10
記念物	遺跡		1	2	14	0	17
	名勝地		0	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物		0	7	6	0	13
文化的景観			0	－	－	－	0
伝統的建造物群			0	－	－	－	0
合計			1	19	48	1	69

※「—」は指定・登録制度がない類型

1) 有形文化財

建造物

建造物は、5件の指定・登録文化財があり、このうち、市の指定文化財が4件、国の登録文化財が1件です。

県内でも数少ない江戸時代初期の形態を留める熊野神社旧本殿や、浅谷七郎神社、鷹島住吉神社など、神社建築のほか、平戸藩家老の茶室である茶室調風亭や大正時代に海運業で栄えた実業家の別荘である旧長醫家住宅主屋といった建造物が指定・登録されています。



旧長醫家住宅主屋（星鹿町）

絵画

絵画は、1件が市の指定文化財となっています。

指定されているのは、松浦家の始祖源久及び歴代今福松浦家の菩提寺である宛陵寺^{えんりょうじ}の天井絵で、平戸藩の絵師、片山舟水が嘉永3年（1850年）に描いたと伝えられ、全部で89枚確認でき、動物、植物、架空の動物が極彩色豊かに描かれています。



宛陵寺天井絵（今福町）

彫刻

彫刻は、8件の指定文化財があり、このうち、県の指定文化財が5件、市の指定文化財が3件となっています。

御厨港を見下ろす慈光寺の金銅阿弥陀如来坐像や高麗時代(918年～1392年)の制作と想定される旧金泉寺の銅造如来坐像、鷹島の銅造如来坐像など、中国大陆の影響を窺わせる仏像があります。



慈光寺の金銅阿弥陀如来坐像
(御厨町)

工芸品

工芸品は、5件の指定文化財があり、このうち、県の指定文化財が2件、市の指定文化財が3件となっています。

松浦家の始祖源久を祀った善福寺に伝わる鰐口や、今山神社、鷹島住吉神社、宮本家に伝わる懸仏など、各時代の仏教色を表す工芸品が指定されています。



善福寺鰐口(今福町)

書跡・典籍

書跡は、2件の指定文化財があり、いずれも市の指定文化財です。

福島氏の神様である今山神社の宮司大河内家に伝わる系図、神職の辞令等を合わせた古文書と、鷹島住吉神社の大般若経があり、いずれも本市の歴史的背景などを伝える貴重な資料です。



鷹島住吉神社の大般若経
(鷹島町)

古文書

古文書は1件が市の指定文化財となっています。

指定されているのは宛陵寺古文書です。今福松浦家が松浦地方の有力な御家人だったことを裏付けるとともに、室町時代から江戸時代にかけての本市の歴史を知ることのできる貴重な資料です。



宛陵寺古文書(今福町)

歴史資料

歴史資料は1件が県の指定文化財となっています。

指定されているのは、昭和49(1974)年に神崎海岸で発見された鷹島の管軍総把印です。印面にはパスパ文字が刻まれ、「管軍総把印」の意とされます。弘安の役の際、総把(中隊長程度の将校)が持ち込んだものと考えられます。蒙古襲来に関する貴重な資料です。



鷹島の管軍総把印(鷹島町)

2) 民俗文化財

有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は6件の指定文化財があり、このうち、県の指定文化財が1件、市の指定文化財が5件となっています。

志佐町の庄野や福島町の大山、鷹島町の刀の元^{とうもと}にある六地藏や、今福町の人柱観音供養塔、福島町の白石参道の石灯籠など、地域の人々に親しまれる石造物が指定されています。



刀の元の六地藏（鷹島町）

無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は11件の指定文化財があり、このうち、県の指定文化財が1件、市の指定文化財が10件です。

星鹿町のジャンガラや、各地区の浮立、淀姫神社の流鏝馬、志佐立町の精霊船などの年中行事や民俗芸能が指定されています。鷹島の島踊や和船競漕などでは、蒙古襲来にちなむ由来や演出が伝わります。



志佐立町の精霊船（志佐町）

3) 記念物

遺跡

遺跡は17件の指定文化財があり、このうち、国の指定文化財が1件、県の指定文化財が2件、市の指定文化財が14件です。

蒙古襲来の古戦場であり、様々な遺物が出土した海底遺跡である鷹島神崎遺跡のほか、松浦党梶谷城跡、松浦家供養塔、松浦で活躍した人物の墓や塚などが指定されています。



鷹島神崎遺跡（鷹島町）

動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物は13件の指定文化財があり、このうち、県の指定文化財が7件、市の指定文化財が6件です。

寺社に残る大木、社叢といった植物や、弁天島、櫃崎の岩脈、喜内瀬川川床の甌穴群、「滑り岩」と呼ばれる波の化石である塩浜漣痕群といった地質に関わる文化財が指定されています。



鷹島の公孫樹（鷹島町）

3.文化財の概要

計画作成にかかる調査結果を踏まえ、市が把握する指定・未指定を含む文化財は、令和4(2022)年11月現在、1,639件となっています。

その内訳は、「ばしょ」に関する文化財が972件、「いとなみ」に関する文化財が428件、「もの」に関する文化財が239件です。

これら市内に所在する文化財の概要を以下に整理します。

表 文化財の件数(令和4(2022)年11月現在)				
大分類	小分類	件数※		
		合計		
ばしょ	遺跡	535	(指 8)	(未527)
	信仰の場	368	(指 9)	(未359)
	街道、航路、鉄道	10	(指 0)	(未 10)
	棚田	3	(指 0)	(未 3)
	農漁村	1	(指 0)	(未 1)
	名勝地、景勝地	55	(指 4)	(未 51)
もの	建造物	26	(指 5)	(未 21)
	絵画、彫刻、工芸品等	50	(指 14)	(未 36)
	文献資料、図画資料等	13	(指 3)	(未 10)
	考古資料	44	(指 1)	(未 43)
	民俗資料	29	(指 6)	(未 23)
	動物、植物等	77	(指 9)	(未 68)
いとなみ	風俗慣習、民俗芸能	255	(指 10)	(未245)
	地名	118	(指 0)	(未118)
	生業	9	(指 0)	(未 9)
	民話	36	(指 0)	(未 36)
	郷土食	10	(指 0)	(未 10)

※()内の(指)は指定・登録文化財、(未)は未指定・未登録文化財の件数

(1)ばしょ

遺跡

刈萱城跡をはじめ中世の山城跡、^{やかたあと}館跡など、松浦党に関連する遺跡や、中川激戦地など蒙古襲来関連の遺跡が数多く残されています。また、海岸部には小嶋古墳群や6世紀中ごろの横島古墳などの古墳も見られます。



横島古墳(福岡市)

信仰の場

「おこぼ様」や^{てんまんしゃ}天満社等、漁村を見下ろす高台や港の周辺、農村の周辺、古い通り沿いに様々な神社や寺、祠等があります。これらは古くから地域で暮らす人々の身近な信仰の場として敬われています。金剛四国の札所も所在します。



浜神社(今福町)

街道、航路、鉄道

御厨街道が、平戸から御厨、志佐、調川を通り、今福から伊万里に抜けています。通れないのは一部のみで、その多くが今も歩くことができます。

昭和初期に開通した旧国鉄松浦線も開通から80年が経過し、本市にとって欠かせない交通手段の一つとなっています。車窓からは美しい風景を楽しむことができます。



御厨街道

棚田

市内の棚田と言えば土谷棚田が挙げられます。土谷棚田は明治から昭和にかけて開墾された約15ヘクタールの棚田です。棚田百選に選ばれており、4月から5月の田植えの時期には多くの写真愛好家が訪れます。平成15(2003)年には、土谷地区の住民が美しい景観を保全し、棚田の美と農家の心を発信していくことを目的として火祭りがはじまりました。中断した時期もありましたが、日本夜景遺産にも選ばれています。



土谷棚田（福島町）

農漁村

伊万里湾に面する漁村の多くは、かつて「浦」と呼ばれた港町です。「浦」の名は江戸時代の『^{けいちょうくにえず}慶長国絵図』に見ることができます。複雑な地形を活かした小さな港町としての面影が今も維持される漁村が多く存在します。

農村は、伊万里湾の後背地に見ることができます。多くの農村は斜面地に位置しています。緑に囲まれた昔ながらの集落としての面影が残されるところも多く存在します。



阿翁浦の漁家住宅群（鷹島町）

名勝地、景勝地

いろは島をはじめとする伊万里湾の島々、複雑で多様なリアス海岸等で構成される美しい景勝地を見ることができます。また、噴火や地殻変動を物語る断層や^{しゅうきよく}褶曲した地層の露出箇所等を市内各地で見ることができます。

龍王の滝や^{おてや}落合の滝といった滝や志佐川、今福川、調川川といった河川等、山と海をつなぐ溪流が市内のあちらこちらに見られます。



落合の滝（志佐町）

(2)もの

建造物

神社の社殿、旧養源小学校や中免公民館といった近代建築、松浦家ゆかりの建築物等、多種多様な建築物やその付属屋等が残されており、地域固有の景観を構成しています。

漁村や農村には、それぞれ伝統的な漁家住宅や農家住宅が残されています。御厨をはじめ農家住宅の中には高い生垣である「ひゃーし」で屋敷地を囲むところもあります。



中免公民館（調川町）

福島や飛島等には、炭鉱関連の近代化産業遺産も残されています。主なものとしては石炭の採掘や積出に関わるコンクリート製の遺構、炭鉱従事者の慰霊碑等が挙げられます。

絵画、彫刻、工芸品等

神社の天井絵が市内に所在するほか、本市は、洋画家である辻利平(1900-1988、星鹿町出身)や彫刻家である加椎敬将(1941～、御厨町出身)の作品を保管展示しています。

また、寺院や祠に祀られる仏像や、神社の狛犬等、信仰の場と一体となって守られている彫刻や工芸品があります。

文献資料、図画資料等

地域の暮らしぶりを知ることができる郷土誌などの文献資料、土谷家、宛陵寺などに伝わる古文書、今福押役所文書などの史資料が残されています。

考古資料

縄文・弥生・古墳時代の遺跡が海沿いや山裾に確認されており、その遺物は、先史時代から海や山の恵みを受け人々が暮らしてきた歴史を今に伝えています。

蒙古襲来関連の遺跡は、鷹島海底遺跡が代表的存在であり、海底遺跡から発見された「てつほう」や元軍船の碇などの遺物は埋蔵文化財センターに数多く保管されています。

民俗資料

かつて農業や漁業で用いられていた道具や暮らしぶりを伝える調度品、食器などの民具が福島歴史民俗資料館や調川民俗資料館などに数多く保管、展示されています。

また、^{こうしんとう}庚申塔や信仰に関わる^{いたび}板碑、^{せきし}石祠、地蔵なども民俗資料として把握されています。

動物、植物等

ツバキの群生地、マキの古木、神社境内のイチヨウや^{しゃそう}社叢、セندانやスダジイなど、地域で大切にされてきた植物が見られるほか、福島には^{ひつぎき}櫃崎の海岸植物群落や貴重植物も見られます。

また市内には、コイ科のアブラボテ、イトモロコ、ニッポンバラタナゴなどの淡水魚やオカミガイ科のナラビオカミガイ、シノミミガイ、キヌカツギハマシノミガイなどの貝類、ハンミョウ科のヨドシロヘリハンミョウ、ルイスハンミョウ、カワラハンミョウなどの昆虫類など、希少な生物も見られます。



農家住宅とひやーし



徳義炭鉱の積出港跡(福島町)



加椎敬将の塑像(市役所)



御厨村郷土誌



元軍船の碇石(鷹島町)



つばきの群生地(福島町)

(3)いとなみ

風俗慣習、民俗芸能

講、浮立、精霊流し、お宮日、例大祭、奉納相撲など、様々な風俗慣習や民俗芸能が市内各地で継承されています。中には、釜蓋かぶせ等のように、掛け声、楽器など音を伴うものも伝わっています。



淀姫神社の例大祭（志佐町）

地名

星鹿、御厨、志佐、調川、今福、福島、鷹島、黒島、飛島、青島といった地名は古くから続く地名であり、慶長国絵図等にも書かれる地名です。

免という地名は、かつての平戸藩領（現在の長崎県北部）において用いられる地名です。現在も本市のほか、北松浦郡佐々町、平戸市の一部（旧田平町、旧生月町）でも使われ続けています。



釜蓋かぶせ

生業

本市は、海と山があり、農業や漁業に関する暮らしと生業がある地域です。かつて御厨として朝廷に食べ物を貢進したことも伝えられ、現在も新鮮な海産物を用いた加工業も盛んです。

鷹島では、阿翁石を使った約450年の伝統を有する石工業が伝統産業として今も続いています。



石工モニュメント(アジフライの聖地松浦)

民話

飛島や石盛山にまつわる「鬼の岩屋」や今福町の人柱観音供養塔にまつわる「丹後の人柱」など、様々な民話や言い伝えが残ります。



市教育委員会平成4(1992)年『松浦の民話』

郷土食

本市にも様々な郷土食が受け継がれています。干し大根や干し柿を用いた「はがため」、鷹島の冠婚葬祭でふるまわれる「のっぺり」、郷土のおやつ「いもち」などさまざまです。これらは福島食研究会や松浦市食生活改善推進協議会によりレシピ集にも紹介されています。



はがため(「まつうらの郷土料理レシピ集」より)



いもち(「まつうらの郷土料理レシピ集」より)